

良食味で使い切りサイズのミニレタス ‘マノア’

表1 ミニレタス ‘マノア’ 試食後の評価・感想

良い評価	○色もきれいで大きさもちょうど良くて使いやすい(普通の玉レタスは大きすぎるし、普通のレタスの半玉は、切り口が赤茶けてくるのでできれば買いたくない) ○味はくせもなく、中の葉は甘くておいしかった ○見た目がすごくきれいで、玉レタスに比べて柔らかそうに見えた(実際柔らかかった) ○玉レタス150円だった場合、100円だったら買うと思う ○サラダ菜を100～198円で買っているの、100円だったら安いと思う(サラダ菜派) ○家族4人夕食のサラダ用なら1回に使い切れるので良い(その他の利用でも2～3回では使い切れる)
悪い評価	○サラダ菜と比較するとサラダ菜のほうが良い(お弁当とかに入れるとマノアはかさばる) ○今回の試食がなかったら、スーパーの店頭に並んでいても買わないと思う
提案(販売・調理法等)	○マノアレタスの特徴を強調して販売していれば、興味は抱くと思う ○例えばミニレタスというネーミングで売っていれば、ちょうどいい大きさと思って買うと思う(玉レタスの出来損ないと思われぬ工夫が必要) ○買ってもらうにはネーミングと置き場所がポイントになると思う(玉レタスでもサラダ菜でもサニーレタスでもない別商品として提案販売し、名前はマノアレタスでは売れないと思うので変えた方がよいと思う) ○包装形態は、玉レタスのように丸めてセロハンで包装せず、ふわっとした状態を殺さないよう袋に入れるなどしてはどうかと思う

注) 高校生以下の子供が同居している二世帯世帯の女性(県内N市在住)に対するグループインタビュー結果による。



‘マノア’ 栽培圃場の様子

表2 ‘マノア’ の播種日と生育との関係(2006)

播種日	収穫までの期間 (日)	重量 (g/株)	葉数 (枚)
9月8日	60	115.4	16.9
9月15日	59	126.2	18.2
9月22日	59	160.3	18.4

注) 調査株数:20株

栽植密度:うね幅150cm、株間15cm、条間15cm
5条植え(22,222株/10a)

良食味で使い切りサイズのミニレタス ‘マノア’ についてご紹介します。

平成17年度に行った消費者モニターによる試食では、「おいしい」「適量サイズで使いやすい」「玉レタスに比べて柔らかい」など高く評価されました(表1)。

平成18年度に行った試作では、露地栽培で9月に播種すると、約2ヶ月で収穫できること、株間15cmまで密植できることなどを確認しました(表2)。また、県内量販店等で商品名「ハワイアンミニレタス」として試験的に販売したところ好評でした。

これらのことから、‘マノア’は、中山間地域の複合経営品目、あるいは平坦地域の水田裏作品目として有望であると考えられました。今後は、‘マノア’が消費者に満足してもらえる新しい野菜となるように、現地とともに商品コンセプトを確立し、導入定着に向けた取り組みを展開する予定です。

〔 営農システム担当
福井淑子・中村正男 088-863-4918 〕